

私たちは、
「ありがとう」を贈り、「ありがとう」を頂き、
「ありがとう」であふれる空間を作り続けます。

豊川さくら病院 理念



教育的支援における児童精神科医の役割

「就学相談」について

児童精神科部長

医師 大原 聖子

児童精神科医は、発達障害臨床において

- ①アセスメント
- ②診断
- ③投薬

などの医療的対応、更にはそれらに加えて社会心理的・教育的・職業的支援といった様々な支援を行っていますが、教育的支援の1つに「就学相談」が挙げられます。

「就学相談」とは、子どもにとって最も適した学びの場（就学先）を決めるための話し合いと、その決定までのプロセスを指します。就学相談は、単に大人が就学先を決定するだけのものではなく、子どもを中心に据えた就学のための相談と捉える事が大切です。よって、本人・保護者と教育機関、児童精神科医が、願いや目標、課題を共有することから始めるという姿勢が前提となります。

就学相談において、児童精神科医は保護者が子育て中に心配だった事柄を傾聴する中で、情報と課題を整理します。そして今できること・できないこと・できそうなことを明確にした上で、考えられる就学先はどのような教育を行っているのか、どのような先生がいるのか、どのような支援が期待できるのかなどの総合的な情報を提供し、医学的な所見（特性、知能）をもとに就学先について助言をします。

就学相談では保護者と教育機関、児童精神科医がそれぞれ異なる立場で相談に関わっています。共通することは、「子どもの可能性を信じて理解を深めること」「何ができないのではなく、何ができるか、どうすればできるか」という視点を持っていることです。この視点を意識し、立場を超えて知恵を出し合い、子どもを中心に据えた相談を尽くすことができれば就学相談はとても実りある活動になると思います。



ENJOY! 行事食

手作りデザートの紹介

栄養科 管理栄養士 牧原 萌

6月は行事食がない月のため、給食委託会社様に協力をいただき、手作りデザートの「水まんじゅう風」の提供を行いました。事前に試作を行い、どんな食事形態の方でも安全に食べていただけるよう、言語聴覚士にチェックをしていただきました。デザートの下には季節を感じていただけるよう、あじさいのカードを敷いて提供を行いました。和風のデザートを提供することが少ないため、患者様の中には食事のいちばんはじめに食べ始める方がいたり、「おいしかったよ!」という声もたくさん聞くことができました。



看護部 だより



看護部
准看護師 坂村 佳枝（2階病棟）

当病棟は、2024年秋より回復期リハビリテーション病棟として新たなスタートを切りました。これまでの経験を活かしつつ、リハビリテーションを通じて患者様の「その人らしい生活」を取り戻すお手伝いをしています。

リハビリスタッフや看護師、医師など多くの職種が連携し、安心してリハビリに取り組める環境づくりを目指しています。まだ新しい取り組みの中で慣れないことも多くありますが、スタッフ一同、笑顔と温かいケアを目指し、一歩ずつ前進していきます。

ご自宅や地域での生活にスムーズに戻れるよう、患者様とご家族に寄り添い、温かく前向きな毎日を共につくっていく病棟を目指していきます。

放射線科 診療放射線技師 寺部 雅史

放射線科では、X線を用いた一般撮影、CT検査、透視検査などを行っています。

私たちは、身体への影響がほとんどない程度まで放射線量を低減しつつ、診断に適したレントゲン画像を撮影し、医師へ提供しています。

近年では、緊急性の高い疾患に関する画像情報を診療放射線技師が速やかに医師へ報告することの重要性が高まっており、それに対応する体制づくりも進めています。

また、私たち放射線科の業務には、放射線機器の管理・点検のほか、病院内の各種医療機器が正常に使用できるよう、定期点検や保守点検のスケジュール管理なども含まれています。

今後も、画像の質の向上や被ばくの最適化を常に意識し、患者様の回復に貢献できるように努めてまいります。

放射線科 のご紹介



豊川さくら病院 基本方針

1. 心通う医療や福祉を通じて、心と身体の回復を図れるよう一緒に歩みます。
2. 生活の中で必要な活動に結び付ける回復リハビリテーションを提供することにより、患者様の日常生活機能が向上するように努めます。
3. 社会生活の中で、人が人らしく生きて暮らしていくために、その人らしい社会生活行為の継続が可能となるように努めます。
4. 多職種協働により質の高い医療及び福祉を提供し、患者様利用者様の生活支援に努めます。
5. 地域の医療・福祉関連施設と連携し、それにより生み出される医療及び福祉を、患者様に向けて全力で提供できるように努めます。
6. 私たちと患者様との回復リハビリテーションによる共生の下には、「ありがとう」があることを常に忘れません。